

荒川水管橋 ~日本一長い水管橋~

行田浄水場で作った水道水を荒川を越えて県の西部地域に配水しています。

荒川上流部改修から
100年
1918-2018



荒川水管橋とコスモス畑



荒川水管橋



荒川水管橋見学会の様子

荒川水管橋とは

水管橋とは、水道管のための橋のことで、川の反対側に水道水を送るための施設です。

1984（昭和59）年7月に完成した荒川水管橋（左岸が鴻巣市大芦、右岸が熊谷市小八林に設置）は、全長が1,100.95mあり、国内最長です。荒川水管橋は、行田浄水場で作った水道水を荒川を越えて県の西部地域に配水しています。

この水管橋の付近には、秋になると約1,000万本のコスモスが咲き誇る荒川堤防とコスモス畑が広がり、日本一の長さを誇る荒川水管橋と、それを綺麗に彩るコスモスとの調和のとれた景観が楽しめます。

▶ 荒川水管橋は近代水道百選にも選定されています

近代水道百選とは、1985（昭和60）年に厚生省（現・厚生労働省）が企画し、日本水道新聞社が主催・選定した100ヶ所の水道施設です。近代水道の整備が開始されてから100周年を記念して、歴史的価値の高い水道施設を後世に伝えるため、全国の近代水道施設から100ヶ所が選定されました。

浄水場、ダム、水源地、貯水池、配水塔などが対象となり、歴史的価値、景観、技術などの観点から選定されています。このうち関東地方からは29ヶ所が選定されており、埼玉県内では荒川水管橋・朝霞浄水場の2ヶ所が選定されています。

▶ 旧六堰ではサイフォンを利用して対岸に水を運んでいました

同じく水を荒川の対岸に送る施設が旧六堰でも使用されていました。旧六堰では、左岸で取水し、4キロ程度下流の深谷市と熊谷市の境付近で右岸へと水を供給するために、下流に川の下をくぐりぬける水路トンネルであるサイフォン（江南サイフォン）を設置して、対岸に農業用水を運んでいました。

現在では、六堰頭首工から右岸幹線導水路を伝って用水を供給しているため、江南サイフォンは役割を終え現在では使用されていません。

右が江南サイフォンの写真で、ここの呑口よりサイフォンから対岸である右岸の吐出口に農業用水を運んでいました。（現在では使用されていません）



江南サイフォン呑口

コラム 日本一の水管橋を望む橋

大芦橋は、荒川と和田吉野川を渡る県道66号（行田東松山線）の橋です。埼玉県鴻巣市大芦地内に位置し、橋長は1,016m、幅員は9.5mです。

大芦橋の約500m下流には、荒川水管橋があり、大芦橋から望むことができます。また、大芦橋と荒川水管橋の間には、和田吉野川に架かる熊谷市道の吉見橋があり、これは珍しい形の橋脚が特徴です。

大芦橋の西側（熊谷市）には、県道66号に沿って、埼玉県内でも珍しい「吉見町飛地」が存在しています。



大芦橋



吉見橋

アクセス

荒川水管橋と大芦橋と吉見橋

交通：JR高崎線、秩父本川「熊谷駅」
下車、熊谷市ゆうゆうバス「ひまわり号」乗車、「長島記念館前」
下車、徒歩約5分

住所：埼玉県鴻巣市大芦地内 ほか



荒川水管橋と大芦橋と吉見橋

